

# 『神の祝福①・父なる神による計画』

'22/02/20

聖書箇所:エペソ人への手紙 1章 3-6節(新約 p.373)

今日はまず初めに、皆さんに質問をさせてください。「あなたは、今、何のために生きていらっしゃるのか？また、天の神様は、何のために、あなたを救い、今、生かしておられるのでしょうか？」…このような質問に対して、皆さんは何とお答えになられるでしょう…。エペソ書を書き記したパウロなら、間違いなく、こう答えると思います、「私が生きているのは、神様の栄光が…、神様がほめたたえられるためだ！実に、そのために、私は救われたのだから…」って…。

そして、パウロは続けて、こう言うと思います、「クリスチャンの皆さん！あなたも、そのために救われたのですよ！あなたは、神様の素晴らしさをほめたたえ…、神様をあがめるために救われたのです！」って…。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ 1:3-6をお開きください。

## 命題: 父なる神は、どのように私たちが祝福してくださったのでしょうか？

ここ、エペソ 1:3 以降の箇所は非常に長い文章で…、何と、ここ 3 節から 14 節までが、ギリシア語の原文では1つの文章となっているのです(句点は1つで、読点は18回)！以前、皆さんにもお話したと思いますが、このように、ギリシア語は…、特に、新約聖書のギリシア語は、文章が非常に長い傾向にあります。…しかし、逆に、分かり易いのは、ここ 3 節から 14 節までを通して、パウロは、ある1つのことを私たち読者たちに教えようとしてくれている、という点です。

皆さん、それは何だと思われませんか？⇒実は、それが 3 節のみことばです。つまり、神様がほめたたえられること…、それこそが、パウロがここで訴えていることであり、この当時の一般的な手紙の挨拶のすぐ後で、パウロが1番最初に話し始めた内容なのです。

一体、どうして…、パウロは、神様がほめたたえられることを、強く願っているのでしょうか？⇒その内容と言うか、そのことの説明が、ここ 3 節から、特に、4 節以降で教えられています。今日は、その中でも…、6 節までを皆さんと一緒に学んでいきたいと思います。実は、ここ 4 節から 6 節までで…、聖書の教える三位一体の…、父なる神様のお働きについて…、言い換えれば、父なる神様が、どのように、私たちが祝福してくださったのか？ということが教えられているのです。

## I・私たちが、はるか以前から 選んで くださった！(4 節)

順序は少し変ですが、まず初めに 4 節をご覧ください。ここで、神様は、私たち…、つまり、クリスチャンたちを、世界をお造りになる前…、はるか以前から、選んでくださったのだ！ということをお教えてくれています。神様は、私やあなたのことを…、何千年も前から知っていてくださっていただけじゃない…、永遠の祝福である、天国へ導こうと、決めてくださっていたと教えるのです。これって、すごいことじゃありません！？…今日のみことばの内、4 節には、こうあります。

4 すなわち、神は私たちが世界の基の置かれる前から彼にあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようとなされました。

ここ 4 節初めに、『すなわち…』とあるのは、その直前で教えられている、『(神の)祝福』というものを説明してくれているからです。…神様の祝福というのは、私や皆さんが、イエス様を信じた瞬間から始まったものではありません。あるいは、教会に通い始めた時から始まったのでもありません。…実は、クリスチャンである皆さんは救われる、はるか以前から、神様の祝福の内にあつたのです！…確かに、時間という概念を、完全に排除できない私たち人間からすると、そういった考えを完全に理解するのは難しいと思います。

しかし、神様のみことばが確実に教えてくれていることは、救われる者はすべて、その方の生涯すべて…、いえ、その人の生涯が始まる前から、もう既に、神の御手の中にあつた、ということなのです。

…にわかには、理解し難いことです。…でも、クリスチャンである皆さんは、そういう思いで、過去を振り返ってくださいますと、妙に納得することはありませんでした？⇒「そういえば、今にして思うと…、あの時、どうして、この道を選んだのだろう…。もし、あの時、違う道を選んでいたら、教会に来ることが無かったなあ…」なんて…。確かに、ある方は、過去に辛い経験があつて…、それで、教会に来られたのかも知れません。必ずしも、そういった経験が全て良いと言っているわけではありません。しかし、そういった経験があつたから…、今のような、あなたの人格というものが形成され…、そういった経験があつたからこそ、あなたは救われたのかも知れません。ここで、みことばが教えてくれていることは、「救われたあなたの人生というものは、実は、初めから…、神様が導いてくださっていたのですよ！」ということなのです。

私自身の証しを、この教会でも何度かさせていただいたと思いますが…、ある意味、非常に不思議な神様の導きでした。簡単に申しますと、私が教会に来るようになったのは、高校時代の同級生に、半ば強引に誘われたからなのですが…、そもそも、私は、その高校に行くはずが無かったです！思い起こしてみても、変な話ですが、中学校の先生の手違いで、その…、私立高校を受験する羽目になったのです。しかも、私は、絶対にと言うか…、どう転んでも、その私立高校には行くはず無かつたものですから、軽はずみに、その私立高校を受験することを決めてしまったのです。その受験が終わって、しばらくした後、「絶対に、私立高校には行かさない！」と言っていた頑固な父親が、急に心変わりしてしまって…、今度は逆に、「その高校に行け！」と言うのです。そうして、両親に説得されて…、イヤイヤ、その高校に行くことを承知しました。…そうして、その約3年後に、初めて教会に行くようになったのです。

私だけではありません！皆さんも…、例え、意識しておられなくても…、気付いておられなくても…、神様の不思議な導きによって…、今、この礼拝に出席しておられるのです！確かに、ある意味において、救いとは、その人自身の選択であり、責任です。でも、それは私たち人間から見た観点です。…しかし、同時に、みことばが教えるのは、あなたが、そのような選択をするように、神様は、ずっとずっと前から…、あなたを導いておられた、ということなのです。これは、神様からの視点であり、観点です。その…、どちらも、真理なのです。

そういったことが、Ⅱテモテ 1:9-10 では、こう教えられています。『9 神は私たちが救い、また、聖なる招きをもって召していただきましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みによるのです。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられたものであって、10 それが今、私たちの救い主キリスト・イエスの現れによって明らかにされたのです。…』⇒みことばは教えるのです！あなたや私が救われたのは、『私たちの働きによるのではない』って…。それは、神様の『計画と恵み』の故なのです！…そうして、パウロは続けます、この恵みは、『私たちに永遠の昔に与えられたもの』であつて、それが、『今、…明らかにされた』に過ぎないのだ、って…。

だから、パウロは、エペソ 2:8-9 でも、こう教えます、『8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。9 行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。』⇒私たちが良い人間になったから、神が救ってくださるのではありません。神様のご計画と恵みによるのです！神様が、私やあなたを、はるか昔から…、キリストのうちに…、つまりは、キリストの十字架による、贖いの故に、あなたを救おうとされたのです！だから、イエス様は、こうおっしゃるのです。ヨハネ 6:44、『わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。…』って…。このように、救いとは 100%、神様の御業であり、神様の御働きによるものなのです。

神様によって救われた者には、このような約束(≒目的)が与えられています。4 節後半、『御前で聖く、傷のない者にしようとなされました。』⇒ここで、言われている、『聖く、傷のない…』というのは、明らかに、旧約の時代から神様に捧げられていた、「いけにえ」のことを説明しています。ここで、『聖く』と訳されている言葉(ἅγιος)は、「神様のために、選び分ける」ということです。それ故に、聖いし…、益々、聖くされていくのです。「聖いから選ばれた」と言うよりも、「選ばれたから聖くなっていく」というイメージなのです。

どういふことかと言いますと…、これは、私の場合の例えなのですが…、例えば、自分のお気に入りの靴があるとします。私は、その靴を特別な時にしか履きません。そして、1度、履いただけで、きれいに、靴を磨いて、また、クローゼットにしまいます。…すると、その靴は、どうなっていくでしょうか？⇒明らかに、他の靴とは違ってきますよね？艶が出てきて…、いつまでも、新品に近い状態が続くでしょう。

そのように、私たちクリスチャンも、神様が、特別な御用のために、選び分けてくださったのです。だから、救われた当初は、それまでと、あまり違ってなくても、信仰が成長していく毎に…、また、キリストに似た者へと変えられていくほどに、その違いが明らかになっていくのです。

また、『傷のない…』というも、同じです。その昔、神様に捧げられるべき、いけにえは、『傷のない』ものしか許されませんでした。そういったことは、レビ記や民数記で、何度も教えられています。また、ここで、『傷のない…』と訳されている言葉(ἄμωμος)は、「非の打ち所の無い…」という意味でもあります。つまり、ここで、パウロが言わんとしていることは、「神様によって選ばれた私たちは、神様に捧げられた、いけにえが良いものであったように、私たちが聖く…、傷のない…、完全なものとなることができる」ということなのです。

だから、ここ4節を、注意深く観察して下さいますと、『聖く、傷のない者にしようとなされました。』の前に、何とあります？⇒『御前で…』とありますでしょ？これは、つまり…、私たちが、神様の前に立つ時、ということなのです。その時に、私たちは、何一つ、罪も…、汚れも無い者として、神様の前に立つことができるのです。

だから、パウロは、**コリント 1:6** で、『あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させて下さる…』と、自信に満ちて、私たちに教えてくれるのです。神様の御働きは、決して、途中で終わることはありません。いきなり、「辞めます！」と言って、私たちが驚かせるようなことは無いのです！

ですから、クリスチャンの皆さん。どうぞ、神様の御導きに…、神の選びに…、また、お働きに期待して、感謝する者であり続けてください。救われた後も、私たちは、変わらず、神様の導きの内にいることに、何ら変わりはないのですから。…だから、聖書のみことばは、『16 いつも喜んでいなさい。17 絶えず祈りなさい。18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。』(1 テサロニケ 5:16-18)と勧めてくれるのです。

そして、もしも、あなたが、この神様を信じていらっしゃるなら…、どうぞ、覚えてください。神様は、あなたにも、救いを与えようとしておられます。みことばは、はっきりと、こうも教えてくれています。1 テモテ 2:4、『神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。』⇒神様のみごころは、あなたも、この救い主イエス様を信じて、救われることです。「果たして、神様が、自分を選んでおられるかどうか？」ということ、私たちが人間には分かり得ません。その方が救われて、初めて分かるのです。大事なことは、あなたが、この神様を信じ、受け入れるか…、あるいは、受け入れないか…。それは、あなた自身が、ご自分の責任において、選択しないといけないのです…。

## II・私たちが、ご自分の子としてくださった！(5節)

父なる神様は、どのように、私たちクリスチャンを祝福してくださったのか？⇒その2番目は、私たちが、**ご自分の子にしようとしてくださった！**ということ。これは、ただ単に、罪赦されて…、天国に行けるようになった、という以上の祝福です。5節に、こうあります。

5 神は、みむねとみこころのままに、私たちがイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。

このように、神様は、私たちクリスチャンたちを、『ご自分の子にしよう…あらかじめ定めておられた』とあります。皆さん、ちょっと、エペソ 2:3 をご覧ください。『私たちがみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。』⇒みことばは教えます、「かつての私たちは皆、神に逆らい、自分勝手に…、生まれながらに御怒りを受けるべき者でした」って…。確かに、そうです！かつての私たちは、神様に裁かれて当然の存在だったのです。

確かに、救われた後も、罪を犯していくでしょう…。しかし、本当に救われた者たちは、神の前に大きく変えられたものがあります。それが、私たちの生き方です！かつての私たちは、自分のために生きていました。自分自身が、すべての基準で…、何が正しいのか…、何が間違っているのか…、どうすべきなのか…、最終的な判断は、いつも自分自身にありました。しかし、信仰を持った後は違います。神様のみごころこそが、すべてにおける基準であり…、私たちは失敗しつつも…、自分を救ってくださった神様のために生きていこうとするのです。皆さんもそうでしょ？

そんな私たちが、神様は、罪の裁きから解放して下さいました。私たちに、希望を与えてくださったのです！しかし、神様からの祝福は、それで終わりではありません。何と、神様は、かつて…、神に逆らい、好き勝手に生きていた私やあなたを、養子縁組して、自分の子として迎え入れてくださったのです！

もしも皆さんが、何かの慈善活動をしておられたら…、そのような…、かつて、自分に逆らい…、好き勝手に生きていたような…、そんな子どもを、自分の子どもとして引き取ることで、できます？…でも、天の神様は、そのような私たちを選んで、御自分の子どもとしてくださったのです！

神様の恵みは、それだけではありません！…と言いますのも、私たちは、神のひとり子であられる、御子イエス・キリストを殺してしまったからです！どうぞ、皆さん。マルコ 12 章をご覧ください。そこで、イエス様は、天の神様が実行して下さった救いの計画について、こんな例えを使って説明して下さいました。マルコ 12:1-12、『1 それからイエスは、たとえを用いて彼らに話し始められた。「ある人がぶどう園を造って、垣を巡らし、酒ぶねを掘り、やぐらを建て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。2 季節になると、ぶどう園の収穫の分けまえを受け取りに、しもべを農夫たちのもとへ遣わした。3 ところが、彼らは、そのしもべをつかまえて袋だたきに、何も持たせないで送り帰した。4 そこで、もう一度別のしもべを遣わしたが、彼らは、頭をなぐり、はずかしめた。5 また別のしもべを遣わしたところが、彼らは、これも殺してしまった。続いて、多くのしもべをやったけれども、彼らは袋だたきにしたり、殺したりした。6 その人には、なおもうひとりの者がいた。それは愛する息子であった。彼は、『私の息子なら、敬ってくれるだろう』と言って、最後にその息子を遣わした。7 すると、その農夫たちはこう話し合った。『あれはあと取りだ。さあ、あれを殺そうではないか。そうすれば、財産はこちらのものだ。』8 そして、彼をつかまえて殺してしまい、ぶどう園の外に投げ捨てた。9 ところで、ぶどう園の主人は、どうするでしょう。彼は戻って来て、農夫どもを打ち滅ぼし、ぶどう園をほかの人たちに与えてしまいます。10 あなたがたは、次の聖書のことばを読んだことがないのですか。『家を建てる者たちの見捨てた石、それが礎の石になった。11 これは主のなされたことだ。私たちの目には、不思議なことである。』12 彼らは、このたとえ話が、自分たちをさして

語られたことに気づいたので、イエスを捕らえようとしたが、やはり群衆を恐れた。それで、イエスを残して、立ち去った。』

⇒ここで出てくる…、殺されてしまった息子は、イエス様を指しています。いえ、その前にも、神様は、多くの預言者たちを遣わしてくださいました。しかし、結局、ユダヤ人たちがしたのは、その預言者たちに従うどころか、彼らのことを迫害したのです！そして、とうとう、救い主であられるイエス様までも、ユダヤ人たちは殺してしまったわけです。

でも、ユダヤ人たちが悪かったのか？いいえ！実は、私たち異邦人も、ユダヤ人たちと大差ありません。…と言うのも、イエス様は、ユダヤ人たちのためだけでなく、私たち異邦人たちのためにも死んでくださったからです。…だから、イエス様ご自身が、ご自分の死に関して、こんな予告をされましたよ？ヨハネ 10:18、『だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。』⇒ここで、イエス様は、ご自分からいのちを捨てる！という話しをなさっています。だから、イエス様は、あのゲツセマネの園でもお逃げにならなかったし…、裁判でも、自分のことを何一つ弁護されなかったのです。

ちょっと、皆さん。ここで、ローマ 8:14-17 をご覧くださいませ？『14 神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子どもです。15 あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父」と呼びます。16 私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいませ。17 もし子どもであるなら、相続人でもあります。私たちがキリストと、栄光とともに受けるために苦難をともにしているなら、私たちは神の相続人であり、キリストとの共同相続人であります。』

⇒ここでは、私たちクリスチャンたちが、「神の子とされる」ということについて教えられていましたが、クリスチャンたちは、神の子とされたが故に、『キリストとの共同相続人』であると言うのです。だから、私たちは、キリスト程ではありませんが…、キリストと同じような苦難や迫害を受けるのです。しかも、その後には待っているのは、キリストと同様、神様の与えてくださる称賛であり、栄光なのです。

また、聖書のみことばは、何度も、私たちクリスチャンが、「御国を受け継ぐ」(エペソ 1:11,14)とか、「御国を相続する」(エペソ 5:5; コロサイ 3:24; ヤコブ 2:5)ということを教えてくれています。そういったことは、ここエペソ 1:11,14 でも教えられています。私たちは、天の御国…、つまり、天国に居候させてもらうのではありません！天国の正式な住人となるのです！いいえ、もう既に、私たちは、天国の住民とされているのです！だから、ピリピ 3:20には、こうあるのです。『けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。』って…。良いですか、皆さん。イエス様を信じて、救われた人は皆、このような素晴らしい祝福が、もう“既に”与えられているのです！

### Ⅲ・私たちが、神を ほめたたえる 者としてくださった！（3 節、6 節）

父なる神様が、私たちクリスチャンのためになしてくださった祝福…、その3番目は、天の神様が、私たちのことを、神様をほめたたえる者としてくださった！ということです。どうぞ、皆さん、今日のみことばの3節と6節をご覧ください。その3節は、先程も言いましたように、14 節までの、総まとめのようなみことばですが、このようにあります。

3 私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。

6 それは、神がその愛する方において私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。

ここ3節を原語のギリシヤ語で観察してみると、まず、最初にあるのは、『ほめたたえられますように』という言葉です。それこそが、パウロの1番の願いであったのです！前回、お話ししましたが、この手紙を書いた時、パウロは、どこに居ましたか？⇒ローマの獄中だったでしょ！まあ、所謂、軟禁状態でしたので…、私たちが思い描くような、牢屋ではないでしょうが…、それでも、パウロには、1日中、『番兵』(使徒 28:16)の監視が付き…、『鎖』で拘束され(使徒 28:20; エペソ 6:20)、自由が制限されていたのです。

そんな中で、パウロが1番に願っていたのは、自分が釈放されることではありませんでした…。神様がほめたたえられることだったのです！皆さん、これって、驚くべきことじゃありません？⇒だって、普通…、多くの人たちは、パウロのような環境に置かれたら、何よりもまず、自分が釈放されることを願うのではないのでしょうか？

ここで少し、聖書の教える、「感謝する」と「ほめたたえる」ことの違いについて、皆さんに説明させていただきます。基本的に、「感謝する」というのは、自分に対して、何か良いことをしてもらった時に、その「ありがとう」という思いを相手に伝えることですよね。…それに対して、「ほめたたえる」というのは、自分に対して、何もしてもらっていなかったとしても…、その方が素晴らしいものを持っていたり、何か称賛に値するものがあつたりした時に、それを表わす行為であると言い得ます。

聖書には、このような…、「神をほめたたえる」とか、「神をほめたたえよ！」という言葉が、何度も出てきます。私たちが、まず、ここで、しっかりと覚えるべきことは、「神様が、私の願いを叶えてくださったから、…だから、神を賛美しよう！…だから、神に感謝しよう！」ではなく、まず初めに、私たちが、神様の素晴らしいさを覚え、その前に私たちがひれ伏して…、神様をほめたたえるべきである！ということなのです。

ちょっと、皆さん。ピリピ 1:20-21 をご覧ください。時間が無いので、あまり詳しくは申し上げられませんが、このピリピ書は、エペソ書と同時期に、同じ、ローマでの投獄中に書かれたものだと考えられています。この少し前の個所で、パウロは、自分が、『キリストのゆえに投獄されている』ことや、ある一部のクリスチャンたちは、パウロに対する、『党派心をもって、…投獄されている私(=パウロ)をさらに苦しめるつもり』で、『キリストを宣べ伝えて』いるという話をしています。そんな中で、パウロが願っていたことが、この、ピリピ 1:20-21 に書かれています。『20 それは私の切なる祈りと願いにかなっています。すなわち、どんな場合にも恥じることなく、いつものように今も大胆に語って、生きるにも死ぬにも私の身によって、キリストがあがめられることです。21 私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です。』⇒いかがですか、皆さん。聞いてくださいました？パウロは言うのです、「自分のことはどうでも良い！」って…。「ただ、キリストの素晴らしさが、自分を通して現わされたら、それで本望だ！」って…。

一体、救われている方の内、どれだけが、こんなことを言えるでしょうか？…しかし、私たちが、もっとも…、神様のことを知り…、神様の素晴らしさを知っていくなら…、私たちもそのように変えられていくのです。神様が自分にしてくださったことを感謝するだけでなく…、心から、神様の素晴らしさを…、また、その偉大さをほめたたえていく…、そのような者へと、神様が変えていってくださいませ。

では、実際、ここ3節では、どんなことが教えられているのでしょうか？3節後半、『神はキリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。』⇒ここでは、『祝福』という言葉が2回も繰り返されて、強調されています。ギリシヤ語を見ても、『祝福』という言葉の名詞形と動詞形が、ここでは使われています。

みことばは教えます、神は、『天にあるすべての霊的祝福』を、私やあなたに与えてくださった！って…。皆さん、聞いてくださいましたか？「一部ではなく、『すべての』祝福だと言うのです。それは、一体、どういふことなのでしょう？⇒それが、今日、これまでに見てきた内容です。神様は、私たちが、はるか以前から、

みこころの内に選び、罪も汚れも無い…、完全な者にしようとしてくださいました。…また、私たちを、自分の子としてくださいました…。私たちを、神様をほめたたえることができる者としてくださった、ということです。当然、その内容は、今日、学んだものだけでなく、14 節まで続くわけですが…。しかも、ここ 3 節には、『祝福してくださいました。』とあって、不定過去という時制が使われています。つまり、その…、神様の御業が、もう、確実に済んでいる…、なしてくださった、ということなのです。

パウロが、ここ 3 節で言うのは、神様は、それらすべての祝福を、『キリストにあって』…、つまり、キリストという救い主を通して…、あるいは、キリストを用いて、私たちに与えてくださったのです。ですから、前回にも申しましたが、誰であっても…、このキリストを、自分の神様として…、救い主として受け入れることなくしては、この神様の与えてくださる祝福には、到底、預かることはできません…。

どうぞ、今度は、6 節をご覧ください。ここでは、神様が、私やあなたに、多くの素晴らしい祝福を与えてくださった、その…、究極の目的が教えられています。それこそが、「神をほめたたえる」ということなのです。一体どうして、神様は、私やあなたを救ってくださったのでしょうか？⇒私やあなたが、地獄に行くことを可哀想に思われたからでしょうか？それとも、私たちが天に行くためでしょうか？残念ながら、それらは間違いではなくても、神様からして、“1 番の理由”ではありません。神様は、御自身の栄光のために…、私たちを救ってくださったのです！それこそが、神様から見た時の、1 番の理由であり、目的です…。

皆さんも、よくご存知でしょう…。私たちが造られた目的は何でした？⇒イザヤ 43:7 には何とありますか？⇒『わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。』と、みことばは教えます、神の栄光のためだ！って…。だから、創世記 1 章のみことばを思い出して下さっても、そこに何度も出てくる表現に、このようなものがあります。『…神は見て、それをよしとされた。』(創世記 1:10,12,18,21,25) …皆さんも、印象に残っておられますでしょ？そうして、最後の、創世記 1:31 には、こうあるのです。『神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった。…』⇒一体、どう良かったのでしょうか？それは、詩篇 19 篇などが教えるように、神様によって造られたものが、神様のみこころの通りになって、神様の栄光を現わしている、…つまりは、ちゃんと、目的を果たしている、ということなのです。

良いですか、皆さん！神様は、すべてのことを御自分の栄光のためになされるのです。だから、神様は、私たち…、救われたクリスチャンに対しても、こう教えるのです。I コリント 6:20、『あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。』、また、I コリント 10:31 でも、『こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をすることも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。』って…。それは、イエス様も、ヨハネ 17 章で祈っておられる内容でもあります。

いかがでしょう？皆さんは、神様の栄光が現わされることを願っておられます？願っておられますよね。しかし、そういったことを、皆さんの最高の目的、あるいは、1 番の願いとしておられるでしょうか？⇒実に、そのために、私やあなたは救われ…、神の子とされたのです。

神は、こう、おっしゃいます。イザヤ 42:8、『わたしは【主】、これがわたしの名。わたしの栄光を他の者に、わたしの栄光を刻んだ像どもに与えはしない。』って…。改めて言うまでもないことですが、神様の栄光は、神だけのものです！それを私たちが、他のものに与えようとする時に…、つまりは、真の神様でないものを拝んだりする時に、神は悲しまれます。かつての私たちは、そのような者でした。真の神様を知らず…、真に栄光をささげるべきお方を知らずに、生きていました。しかも、その行き着く先は、永遠の地獄…、終わることの無い裁きでした。…しかし、そんな私たちを、神様は、救い出してくださいましたのです！これが、『恵み』でなくて何なのでしょう！これが、素晴らしい『祝福』でなくて何なのでしょう！…皆さん、これが、今日のみことばの 6 節で言われている、『恵みの栄光』なのです。あなたは、それを現わすために…、また、神様をあがめ、神様をほめたたえるために救われたのです…。そのことを、どうか、忘れないでください！

## <励ましの言葉>

本当は、もうここでメッセージを終えないといけませんが、最後に、もう少しだけお話しさせていただきます。今回のみことばに、『祝福』という言葉が出てきていましたが、もう、かなり前に(2001 年秋に発行)、「ヤベツの祈り」(Bruce Wilkinson 著)という本が、日本だけでなく、アメリカや各国で、ベストセラーになりました。実は、その信仰書は、あまりにも好評を博したために、その本に関連して、ディバージョンガイドやバイブルスタディ、子ども用の本、壁に飾る額やビデオにまで、なりました。まあ、結構、薄い本なので(126p)、関心のある方は読んで下さっても構いませんが、その本には、こんなことが書かれてあります。

ヤベツという人物は、聖書の中で、たった 1 箇所…、わずか 2 節にしか出てきません。聖書の箇所は、I 歴代誌 4:9-10 です。そこには、こう書かれてあります。『9 ヤベツは彼の兄弟たちよりも重んじられた。彼の母は、「私が悲しみのうちにこの子を産んだから」と言って、彼にヤベツという名をつけた<sup>1</sup>。10 ヤベツはイスラエルの神に呼ばわって言った。「私を大いに祝福し、私の地境(じざかい)を広げてくださいますように。御手が私とともにあり、わざわざいから遠ざけて私が苦しむことのないようにくださいますように。」そこで神は彼の願ったことをかなえられた。』⇒たった、これだけです…。この箇所から、著者の Bruce Wilkinson という人は教えるのです。「ここに、神様の祝福の鍵があった！」って…。私たちは、もっともつと、このヤベツがしたように…、「神様！どうぞ、私たちを大いに祝福してください！」と祈るべきだと言うのです。そうすると、神様が、もっともつと、私たちを祝福して下さり、私たちに良くして下さる、というのです。

…でも、本当に、そうでしょうか？今日のみことばでは、神様は、もう既に、『神はキリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。』と教えてくれています。また、更に、ローマ 8:28 を皆さんは、よくご存知のはずですが、そこには、何とありますか？『神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださる…』⇒神様は、救われた皆さんに…、皆さんの周りの環境に働きかけて、すべてのことを益としてくださる！とみことばは教えてくれています。つまり、神様が、私たちに、最善をなして下さる、ということなのです。…なのに、私たちは、「神様！どうぞ、私に祝福を与えてください！」と、声を上げて祈らないと、神様は、私たちを祝福して下さらないのでしょうか？

この本の著者は、その本の初めの挨拶で、こう言っています。「読者の皆様へ 神が必ず応えてくださる大胆な祈りをお教えしたいと思います。それは、四つの部分からなる短い祈りで、聖書のあまり目立たない箇所に埋もれています。しかし、そこには神から類い稀なる祝福をいただく人生への鍵が含まれていると私は信じています。…」このように、続いています。

皆さんは、どうお考えになります？神様は、私たちのことを祝福しようとして下さっているのではないのでしょうか？私たちのことを愛して…、私たちが、良い人生を送れるように導いて下さっているのじゃありません？

…だったら、どうして、神様は、そのために必要な…、「神から類い稀なる祝福をいただく人生への鍵」を、わざわざ…、「聖書のあまり目立たない箇所に」隠されるようなことをなさるのでしょうか？もっと、分かり易く、私たちに教えて下さらなかつたのでしょうか？この…、分厚い聖書の、たった 2 節に、私たちの受けることのできる祝福の鍵が、もし、本当に隠されているのなら、数多くのいる信仰者の中の、一体、どれほどの人が、そのような発見をすることができたのでしょうか？

結論を言いますと、神様は、私たちに、祝福を…、祝福を受けるための鍵を、隠されるようなお方ではありません。問題は、私たちの方です。簡単に言うと、私たちが、神様からの祝福を頂けるかどうかは、祈りじゃありません！私たちが、神様のみこころを求めて、それに従うかどうかです。願わくは、神様のみことばに対して、聞く耳を持って、そうして、示された神様のみこころに心から従う者となって頂く～

<sup>1</sup> 『ヤベツ』…「悲しむ」の意